

## 7. 岐阜大学附属図書館の将来像

### 7.1 課題の整理

キーワードを列挙すると、次のようなものが挙げられる。

\* 管理運営面：

事務合理化努力、電子図書館化、電子的情報資料の図書館サービス体制、総合情報処理センターとの連携、学外図書館との協力体制、岐阜県図書館等との棲み分け、地域へのサービス、学内構成員の造りたい附属図書館イメージ、・・・

\* 図書館機能面：

利用しやすい図書館とは？、学習支援機能、教育研究支援機能、保存図書館機能、電子図書館的機能、総合的学術・情報・文化交流（発信）機能、

\* 概算要求事項：

本館の概算要求と医学部分館（MM 図書館） 文部省「学術情報」行政の動向、明日の岐阜大学附属図書館の青写真。

### 7.2 ビジョン

#### 短期的ビジョン

一両年の間に岐阜大学附属図書館の果たすべき機能を明確化しつつ、次のようなビジョンの実現を策定することとする。

必要な「親しみやすい蔵書」や「電子的情報資料」の収集に務める。

学生・教職員に利用されやすい整備を図る。

遊及入力を推進し、数年計画で完成させる。そして、電子図書館化への行動を見極めるための作業を推進する。

「学術情報」文化の交流・発信の基地となるような場の設定に努力する。

本館の増改築の実現に努力する。

#### 中・長期的ビジョン

医学部移転時の分館存続（MM図書館実現）に努力する。

学術情報の伝達という点で共通する関係機関の組織的連携の可能性を探る。

「教育研究（学術文化）広報資料館（仮称）」の実現に努力する。

### 7.3 推進業務

ビジョンに基づいて遂行すべき活動は次のようなものが挙げられる。次述する WG（ワーキンググループ）は、いずれも連絡網を構成し、正式な委員会とせず、図書館アドバイザーとして助言を戴く組織として位置づける。

(1) 「資料選定委員会」の活性化または「蔵書充実WG」の設置

魅力のある図書館蔵書の内容を拡充・充実させるための方策を検討する。

(2) 「電子図書館化WG」設置

電子的情報資料、二次的資料、電子ジャーナル、等への対応と図書館施設と組織の検討。

および学術分野毎の図書館資料への組み込みタイミング判断。

(3) 「学術情報広報WG」設置

展示会的な場を提供し、学内の教育研究者・学術情報の交流・発信の手助けをする。

(4) 増改築のためのWG設置

狭隘な本館のスペース整備・充実は逼迫した概算要求事項であり、青写真を描き、具体化するための検討WG（既往の事務的に検討した資料を元に）とする。

#### 7.4 概算要求（本館の増改築）の概要

本館の増改築は、(1)建物建設以来 17 年を経過し、(2)蔵書収容能力を既に 25%超過し積み上げた図書が散見され、附属図書館の最大の懸案事項である。一方、医学部の移転の平成 15～18 年頃には、医学部分館移転を実現させる必要があり、メディカル・メディア・センター（いわゆる MMC）構想が医学部分館との間で協議されてきたが、「一キャンパス一図書館」の文部省原則からずれるため、困難が予想されている。

このような状況下で、従来から本館の増改築は分館と独立して進めて、概算要求されてきた。その骨子は概略次のようである。

既存の本館面積が 6,385 m<sup>2</sup>に対して、約 2,345 m<sup>2</sup>を計画要求し、本館西側へ増築するものとしている。現在の建物が東西 10 スパン、南北 7 スパンであるので、西に 3 スパン（南北 7 スパン）の増築である。これによって、1)収納スペース改善、2)マルチメディアを活用した電子図書館サービスの整備開発、3)情報リテラシー教育や生涯学習社会への対応に貢献し、「ゆとりある図書館の実現」、「マルチメディア・ライブラリーの実現」を意図している。

なお、MMC 構想は、実現されて動き始めた附属病院部門の「医療情報部」機能、及び tutorial 教育等の「医学教育企画開発」プランの学生教育機能、の 2 者と併せて、Medical Media 図書館（MM 図書館）が学術情報の収集（着信）・整理・提供（発信）する部門としての機能を果たそうとする構想で、医学部分館を MM 図書館として中心的に位置づけるものである。

#### 7.5 岐阜大学「教育研究（または学術情報）文化広報 資料館（仮称）」の必要性

発端は 50 周年記念事業委員会の活動の一つ・「記念誌」作成の過程で、貴重な資料が保存されていない現状に驚愕し、まず (1)分散している「貴重資料の収集・保存」からスタートして、(2)学内の教育研究活動の結果産出した「模型、実験試料、採取試料、作成製品、文献資料」等々の収集・広報・活用による活性化を図り、学術交流の場を広げる、(3)学内外との交流・国際交流における「岐阜大学の個性の発揚」を図る、ことが考えられたことに起因する。

この観点から、図書館行事に今後、展示会的な「学術文化交流の場」を常設して、教職員各位の自発的な成果広報と教育・研究者同士の交流の場を準備したいと考える。